

### 1 環境保全の総合的取組の推進

#### 1-1 基盤的施策の推進

##### (1) 総合的・重点的施策の推進

###### ア 伊勢湾の再生

平成11(1999)年度から平成12(2000)年度に実施した「伊勢湾再生ビジョン策定調査」を受けて、当面の取組をとりまとめたアクションプログラムを策定するとともに、伊勢湾再生に向けた普及啓発、戦略プログラムの推進にかかる事業等を行います。

- ・伊勢湾再生に向けたアクションプログラムの策定
- ・伊勢湾再生ビジョン策定調査のPR版の作成
- ・伊勢湾学セミナー(仮称)の設立準備等
- ・パブリックアクセス向上のための基礎調査など

###### イ 流域圏づくりの推進

宮川流域を対象とした流域圏づくりのモデル事業である宮川流域ルネッサンス事業を推進します。

###### ウ 宮川流域ルネッサンス事業の推進

###### (ア) 宮川流域ルネッサンス事業の総合調整

宮川流域ルネッサンス事業基本計画及び第一次実施計画をふまえ、重点施策、シンボル・プロジェクトの具体化を図ります。普及啓発活動・調査研究を継続して実施するとともに、ルネッサンス事業の自立的な推進組織・財源の設立について検討します。

###### (イ) 関連事業の実施

宮川流域を取り巻く現状を把握するための諸事業を平成12(2000)年度に引き続き実施します。

###### エ 日本まんなか共和国(福井・岐阜・三重・滋賀)連携の実施

日本のまんなかに位置する4県が、交流・連携により環境重視の地域づくりをめざし、次の取組を進めます。

(主なもの)

- ・職員派遣(岐阜県から1名)
- ・子ども環境会議の開催(三重県)
- ・4県の試験研究機関による共同研究の開始(平成13~15(2001~2003)年度 テーマ「大気中有害化学物質に関する共同研究」)
- ・「21世紀の水環境づくり国際会議」の開催(岐阜県)
- ・廃棄物対策担当部局長会議の開催、監視指導担当者による技術研修会、県境検問・パトロールの共同実施、国への共同要望
- ・グリーン購入等に関する意見交換
- ・アイドリングストップ運動の共同推進
- ・間伐材の利用促進をはじめとする間伐対策についての意見交換
- ・産業廃棄物税についての情報交換

###### (2) 四日市地域公害防止計画の推進

平成13(2001)年度は、環境大臣の策定指示に基づき、第7期計画(計画期間平成13(2001)~17(2005)年度)を策定するとともに、第6期計画(計画期間平成8(1996)~12(2000)年度)に基づく各種公害防止施策の実施状況等の進行管理調査を実施します。

表6-5-1 宮川流域ルネッサンス事業の主な関連事業

宮川支流環境基準類型あてはめ事業	大気水質課	支流の横輪川について、環境基準類型あてはめのための諸調査を行い、支流の藤川について、環境基準類型あてはめを行います。
宮川流域保全利用調査事業	河川課	(1)治水・利水の検討 (2)砂利問題の検討を行います。

## 1-2 環境汚染等の未然防止

ア 環境影響評価制度の充実・強化  
平成11(1999)年6月12日から全面施行した「三重県環境影響評価条例」の適正な運用に努め、開発事業等に係る環境影響の低減により適正に環境保全を図ります。

イ 公害事前審査制度の活用  
公害事前審査制度の積極的な活用を図り、工場等の新・増設に関して公害事前審査を行い、公害の未然防止に努めます。

ウ 漁業被害の未然防止  
貝毒成分等モニタリング事業として、英虞湾及び五ヶ所湾等の環境調査を行い、赤潮の早期発見と迅速な状況把握に努め、漁業被害を最小限にするための必要な措置を講じます。

## 1-3 健康被害の救済・予防

ア 公害健康被害者に対する補償給付  
公害健康被害者に対し各種の補償給付を行います。

イ 保健福祉事業の実施  
(ア) 転地療養事業  
15歳以上の被認定者を対象とした転地療養事業を三重県福祉休養ホーム「ゆずりは荘」、三重県勤労者福祉センター「希望荘」(菰野町)において10月1日から10月5日の日程で実施します。(三重県、四日市市、楠町合同開催)

(イ) 家庭療養指導事業  
日常生活の指導、保健指導等を目的とし、三重県と四日市市において、保健婦による家庭訪問を実施します。

(ウ) リハビリテーション事業  
病気を正しく認識するための療養指導と機能回復のため、リハビリテーション教室を2回、日帰りリハビリテーションを3回実施します。

(エ) 水泳指導事業  
基礎体力の増進を図るため、水泳療法を実施します。

ウ 調査研究の実施  
(ア) 三重県公害保健医療研究協議会における研究協議会総会及び研究発表会を四日市市において開催します。

なお、平成13(2001)年度における研究課題は次のとおりです。

- ・四日市地域における肺がん死亡の地理疫学的研究(継続)
- ・学童のアレルギー素因と気管支喘息の関連する疫学的研究(継続)
- ・肺がん患者における血清抗P53抗体測定の実臨床的意識
- ・肺がん手術症例の予後について

(イ) 環境保健サーベイランス調査  
四日市市において地域ごとの呼吸器系疾患の発生状況を調査し、大気汚染との関係を定期的・継続的に把握します。

## エ 健康被害予防事業の実施

表6-5-2 健康相談事業

実施団体	楠 町
事業名	アレルギー教室
実施場所	楠町保健センター
内 容	アトピー乳幼児をもつ保護者に対する相談、指導。

表6-5-3 健康診査事業

実施団体	四日市市	楠 町
事業名	健康診査事業	
実施場所	四日市市保健センター	楠町保健センター
内 容	気管支ぜん息の発症を未然に防止するため、1歳6ヶ月児童健康診査の対象者に健康問診票によるスクリーニングを行い、そのうちアレルギー素因児に対し、医師の診察及び保健婦・栄養士による相談事業を実施。	

## 1-4 公害紛争への対応

ア 公害等の苦情・紛争の処理  
苦情の申し立てや調停等の申請に対して、迅速に適切な対応を行います。また、住民による調査請求に対して、速やかに調査を行い、適切な対応を行います。

イ 環境保全協定締結の推進  
事業者と市町村長等との間における環境保全協定の締結を促すとともに、必要な助言を行います。

## 2 監視・観測等の体制の整備及び環境情報の提供

### 2-1 監視・観測等の体制の整備

#### ア 環境総合監視システムの維持

環境監視、発生源監視(大気・水質)を行う環境総合監視システムを運用し、大気環境と主要な発生源の常時監視を行うとともに、光化学スモッグ注意報の発令等の緊急時対策を実施します。

#### イ 公共用水域の常時監視

##### (ア) 公共用水域常時監視

29河川38地点・4海域21地点で概ね月1回常時監視を実施するとともに、平成14(2002)年度の測定計画を関係機関と協議し策定します。

##### (イ) 地下水水質常時監視

概況調査を24地点で年1回、定期モニタリングは17地点で年2回実施するとともに、平成14(2002)年度の測定計画を関係機関と協議し策定します。

### 2-2 環境情報の提供・整備

#### ア 環境情報システムの運用

最新の情報通信技術によるコンピュータネットワーク化に対応したオープンシステムである環境情報システムを運用します。

平成13(2001)年度は、ソフトウェアの一部バージョンアップを行い、システムを維持します。

#### イ 環境教育情報システムの運用

環境学習情報センター内の環境教育コーナーにおいて、各種環境に関する情報について、県民に幅広く情報の提供を行う環境教育情報システムを運営します。

#### ウ 地理情報システムを活かした森林資源の管理

平成10(1998)年度に作成したシステムの詳細設計に基づき、県全域に森林簿データ、計画図等の入力と機器の整備を行います。

平成12(2000)年度に整備した基本システムを元に、治山、林道、保安林等の情報整備を追加します。

## 3 環境保全に関する調査研究等の推進

### 3-1 科学技術振興センターにおける調査研究

#### ア 多自然型河川づくりに関する研究

護岸資源開発や護岸緑化技術開発などにより自然環境と調和した水辺空間の創出を図るとともに、水生植物や吸着資材を用いた水質浄化技術の開発により環境負荷物質を軽減して河川環境の総合的改善を図るための研究を実施します。

#### イ 環境ホルモン類に関する研究

人や生態系への影響など環境ホルモン類の汚染実態の把握や分解・削減技術の検討などに取り組み、環境ホルモン類の科学的知見の集積を図ります。

#### ウ 伊勢湾の生態系の回復に関する研究

伊勢湾の環境改善と内湾生態系の多様性を回復させることをめざして、貧酸素水塊や生態系の現状を把握するための調査研究、貧酸素水塊発生のシュミレーションを行うとともに、環境回復技術開発のための基礎試験等を実施します。

#### エ 酸性雨・酸性霧実態調査

酸性雨の実態把握のため、長期的な雨、霧、露の酸性化実態調査を行います。

#### オ 大気中有害物質の動態把握に関する研究

大気中の有害物質による環境汚染や健康被害を未然に防止するため、大気中有害化学物質の分析法開発及び動態把握を行います。

#### カ 英虞湾の干潟造成研究

閉鎖性水域(英虞湾)における環境改善手法を開発するため、浚渫汚泥を利用した干潟造成技術の開発研究を行います。

#### キ 里山等多様な森林の育成管理技術研究

里山の再生のための植生の生態的管理手法の確立を図ることにより、市民参加による森林活動に対して技術的支援を行います。

#### ク リグニン誘導体の新素材による環境調和型材料の開発

リグニン誘導体を原料として、木材、セルロース系素材、プラスチック等と複合させ、建材、内装材、包装資材、摺動材など環境調和型材料の開発に取り組みます。

#### ケ 水熱反応によるRDF焼却灰のリサイクル技術に関する研究

RDF焼却灰の有効なリサイクル技術及び水熱反応から合成されるゼオライト等多孔質体の有効な利用技術に関する研究に取り組みます。

#### コ 食品廃棄物の家畜飼料リサイクル技術開発

食品製造者から発生する食品残さ等を家畜の飼料資源として利用する畜産リサイクル技術開発を行います。

### サ 産業廃棄物リサイクル技術研究開発

産業廃棄物のなかで、排出量が多く、法律で再資源化が義務づけられている特定建設資材廃棄物にかかる有効・循環活用を図るため、コンクリート廃材、木質建設廃材の有効活用技術開発に取り組みます。

## 3-2 地球的規模の環境保全等に関する調査研究

### ア 酸性雨等森林衰退モニタリング調査の実施

近年、欧米諸国をはじめとして酸性雨等による土壌の酸性化に伴い、森林が衰退症状を示し、環境保全対策の一環としての取組が緊急課題となっています。わが国においても各地で酸性雨が観測されており、県内の森林衰退の実態を把握するためモニタリング調査を実施します。

### イ 酸性雨等の実態調査

(3-1 科学技術振興センターにおける調査研究工を参照)